



教育長年頭のあいさつ 新しい自分に巡り会うために



松本晴夫 教育長

さやまっ子の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

今年は干支で言うと、巳年にあたります。年賀状で、さまざまな蛇の絵柄を見かけたと思いますが、蛇には手や足がなくてもすばやく動くことができるため、よいいなものたえとして「蛇足」という言葉も生まれました。そんな蛇は、生きていく間に脱皮を何回も繰り返します。古い皮を脱ぎ捨てて、新しい皮に変身します。まるで成長し続けている姿を表しているようです。

そこで、今年は、さやまっ子の皆さんも古い皮を脱ぎ捨てて、成長した自分に巡り会う年にしてください。そのためには、夢や目標に向かって、自分の力を信じ、毎日、勉強や運動にがんばることが大切です。さやまっ子の皆さん一人ひとりの成長を応援しています。

税に関する作文の入賞者

税に関する作文で、次の皆さんが入賞されました。おめでとうございます。(敬称略)

- ▶ 関東信越国税局管内納税貯蓄組合連合会会長賞 高橋空音(堀兼中学校3年)
- ▶ 埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞 齊木優花(西中学校3年)
- ▶ 埼玉県租税教育推進協議会会長賞 澁谷菜美(西中学校3年)
- ▶ 所沢税務署長賞 森田莉菜(中央中学校3年)
- ▶ 所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞 中濱駿勢(入間川中学校3年)
- ▶ 狭山市優秀賞 千田彩加(東中学校3年)、岡本紘也(同)、榎本光(同)、佐島しおり(同)、泉廉(中央中学校3年)、鈴木佑依(入間川中学校3年)、森口拓海(同)、森田彩香(秋草学園高等学校1年)、山川紗登美(同)、瀬里澤咲莉花(同)

問合せ市民課へ内線1096

鮮やかな色彩、豊かな表現力に感嘆の声が

12月10日(月)～21日(金) 狭山ワージントン美術交換展(市役所)

姉妹都市である米国ワージントン市の芸術連盟に所属している方々の絵画など56点が展示され、市役所を訪れた皆さんが足を止めて見入っていました。



モノ作りの楽しさを体験

12月15日(土) 地域ふれあい青年講座(県立狭山工業高校)



ハンダづけの作業は慎重に

この日の講座に小・中学生と保護者26名が参加。先生や高校生のサポートを受けながら、LEDでメロディー付きイルミネーションなどを製作しました。

狭山の今昔物語

Vol.21

第一学校給食センター

昭和47年、県立狭山高校(現:狭山緑陽高校)の南側に建てられた給食センターの完成により、市内すべての小・中学校が完全給食になりました。53年に第二(現:堀兼)、平成21年には、民間の資金や技術力を活用した2つの給食センターが完成し、第一学校給食センターは、その役割を終えました。



最新の厨房機器を備え、1日1万食の調理が可能に(昭和47年)



入間川中学校に隣接して建てられた入間川学校給食センター(平成21年)

全国の市民アスリートが狭山市に集結

12月9日(日) クロスカントリー IN SAYAMA(狭山稲荷山公園)

今年は、過去最多となる1,180名がエントリーし、13種目に分かれて健脚を競いました。第20回の節目となる今大会では、ゲストラナーの早田俊幸さん、片岡純子さんが参加者と一緒に走ったり、サイン会を開いたりして、大会に華を添えました。



絶好のコンディションの中、ゴールを目指して一斉にスタート

首都圏近郊にあって、クロスカントリーに最適な起伏にとんだコースは、狭山稲荷山公園ならではの



苦しさに耐えてゴールに飛び込んだときの喜びは、完走したランナーにしか味わえません

クリスマス料理がテーブルを飾ります

12月12日(水) 簡単!健康! IHクッキング講座(中央公民館)

午前と午後に分けて開催された講座に22名が参加し、IHクッキングヒーターの特性や使い方のコツを学びました。実習では、家族の笑顔を思いながら、スモークサーモンのムースやロールドビーフなどの料理に挑戦しました。



午後のメニューは若鶏のガラソテー



ひとまち写真館

あなたが写っていませんか? 広報さやまに掲載した写真は、広報課で撮影したものでしたら無料で差し上げます。広報課までご連絡ください。

パパも一緒にクリスマスを楽しみました

12月23日(祝) クリスマスファミリーコンサート(市民交流センター)

あそび歌の作家・鈴木翼氏を招いてクリスマスコンサートを開催しました。参加した親子50組の皆さんは、音楽に合わせた体操やゲーム感覚のふれあい遊びを体験。ホールには、元気に体を動かす子ども達の笑顔と笑い声があふれていました。



絶妙なトークとコミカルな動きで子ども達は大喜び!



障害のある人もない人も、一人ひとりの幸せを

12月6日(土) ころの声の発表会(市役所)

12月3日(月)～9日(日)の障害者週間にちなみ、障害を持つ方による体験談や夢の発表会がありました。たくさんの来場者を前に、5人(組)の発表者からは、一歩踏み出す勇気、働く喜び、地域の一員として生きていくことへの思いなどが語られました。



周りの温かいサポートで、地域で安心して暮らしていけます